

令和5年度病害虫発生予報第8号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
きゅうり	うどんこ病	やや少	やや少
	褐斑病	並	並
	ミナミキイロアザミウマ	やや少	やや少
	コナジラミ類（防除情報第11号）	やや多	やや多
トマト	黄化葉巻病	並	並
	コナジラミ類	やや少	やや少
	ハモグリバエ類	やや少	やや少
いちご （本圃）	うどんこ病	並	並
	アブラムシ類	やや多	やや多
	ハダニ類	やや少	やや少
	ハスモンヨトウ	並	並
	アザミウマ類	並	並
ブロッコリー	黒腐病	やや少	やや少
	べと病	並	並
	コナガ	やや少	やや少
	ヨトウムシ類	やや多	やや多
	オオタバコガ	やや多	やや多
	アオムシ	並	並
レタス	灰色かび病	並	並
	菌核病	並	並
	アブラムシ類	並	並
	オオタバコガ	並	並
かんきつ	ミカンハダニ	並	並

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

きゅうり

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（8筆）の結果、発病葉率は0.7%（2.7%）、発生圃場率は37.5%（41.2%）であった。

2. 褐斑病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（8筆）の結果、発生を認めなかった（過去10か年平均 発病葉率0.0%、発生圃場率1.4%）。

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（8筆）の結果、発生を認めなかった（寄生葉率0.4%、発生圃場率10.3%）。

4. コナジラミ類

令和5年11月15日付け**病害虫発生予察防除情報第11号**による。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（8筆）の結果、発病株率は0.0%（0.0%）、発生圃場率は12.5%（8.1%）であった。

2. コナジラミ類

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（8筆）の結果、寄生葉率は0.4%（2.3%）、発生圃場率は37.5%（52.6%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 密度が高くなると防除が困難になるので発生初期に防除する。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和5年長崎県病害虫防除基準P184～187の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避ける。

3. ハモグリバエ類

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（8筆）の結果、発生を認めなかった（被害葉率0.0%、発生圃場率2.1%）。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（26筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（26筆）の結果、寄生株率は4.9%（1.6%）、発生圃場率は46.2%（24.9%）であった。一部多発圃場があった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 花のがくに寄生しやすいので、発生を認めたら初期のうちに防除を行う。

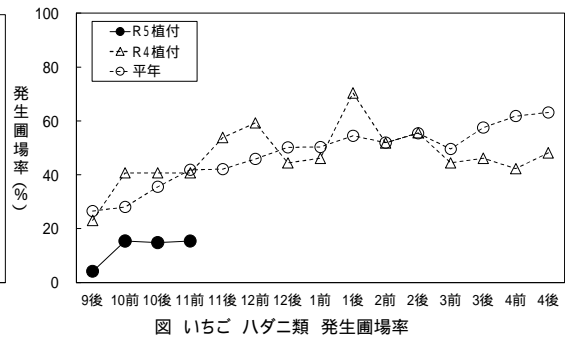
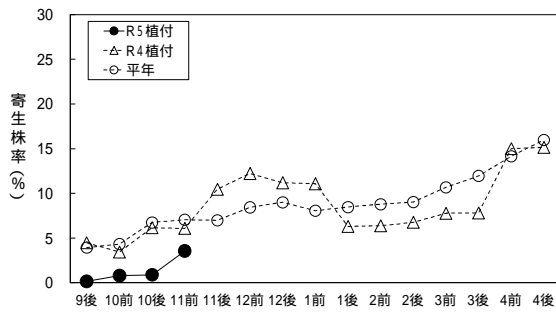
イ 薬剤のかけむらがあると防除効果が低下するので、葉裏まで十分に散布する。

3. ハダニ類

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（26筆）の結果、寄生株率は3.5%（7.0%）、発生圃場率は15.4%（41.8%）であった。



(3) 防除上注意すべき事項

- ア 薬剤散布前には古葉の整理を行い、薬剤が葉裏までかかるようにする。また、摘葉した古葉は、速やかに圃場外に持ち出し適切に処分する。
- イ 今後、天敵を導入する圃場では、天敵に影響の少ない薬剤を用いて防除を行い、ハダニの密度を極力低減した上で放飼する。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和5年長崎県病害虫防除基準P214～217の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

4. ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（26筆）の結果、食害株率は1.9%（2.1%）、発生圃場率は30.8%（31.2%）、幼虫の寄生株率は0.5%（0.4%）であった。

5. アザミウマ類

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（26筆）の結果、寄生花率は0.2%（過去7か年平均0.4%）、発生圃場率は15.4%（同18.4%）であった。

ブロッコリー

1. 黒腐病

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（12筆）の結果、発病株率は0.3%（3.4%）、発生圃場率は8.3%（15.2%）であった。

2. ベと病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

3. コナガ

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生株率は4.3%（8.1%）、発生圃場率は58.3%（52.9%）であった。

4. ヨトウムシ類（ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ）

- (1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 11月前期の巡回調査(12筆)の結果、ハスモンヨトウの寄生株率は1.3%(0.2%)、発生圃場率は33.3%(5.2%)であった。

シロイチモジヨトウの寄生株率は3.7%(過去7か年平均 0.7%)、発生圃場率は41.7%(同 13.1%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)による10月下旬以降の誘殺数は、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウともに11月2半旬に急増し平年より多く推移している。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 圃場の見回りを徹底し、早期発見に努め、卵塊や分散前のふ化幼虫は発見次第除去し適切に処分する。

イ 幼虫は齢が進むと薬剤の効果が低下するので、若・中齢幼虫期に防除を行う。薬剤は虫体によく付着するよう丁寧に散布する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和5年長崎県病害虫防除基準P238~241の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤を連用しない。

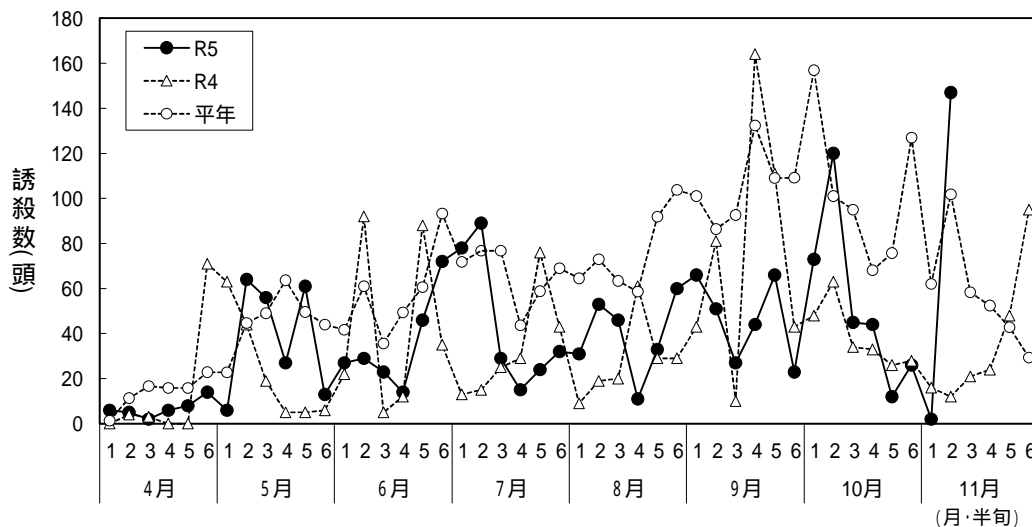


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町)

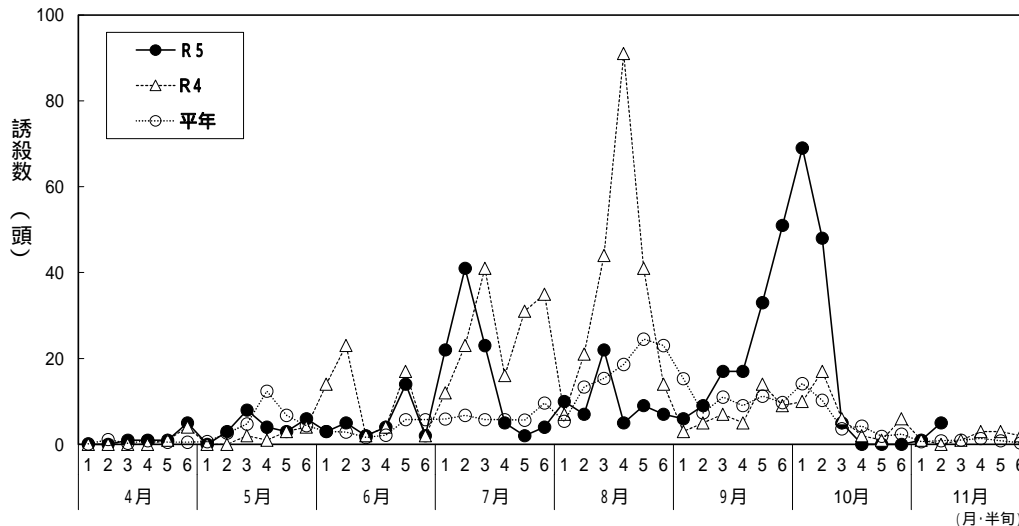


図 シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町)

5. オオタバコガ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 11月前期の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.7%(0.4%)、発生圃場率は41.7%(8.3%)であった。

イ オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺数は11月2半旬に増加したが、平

年よりやや少なく推移している。

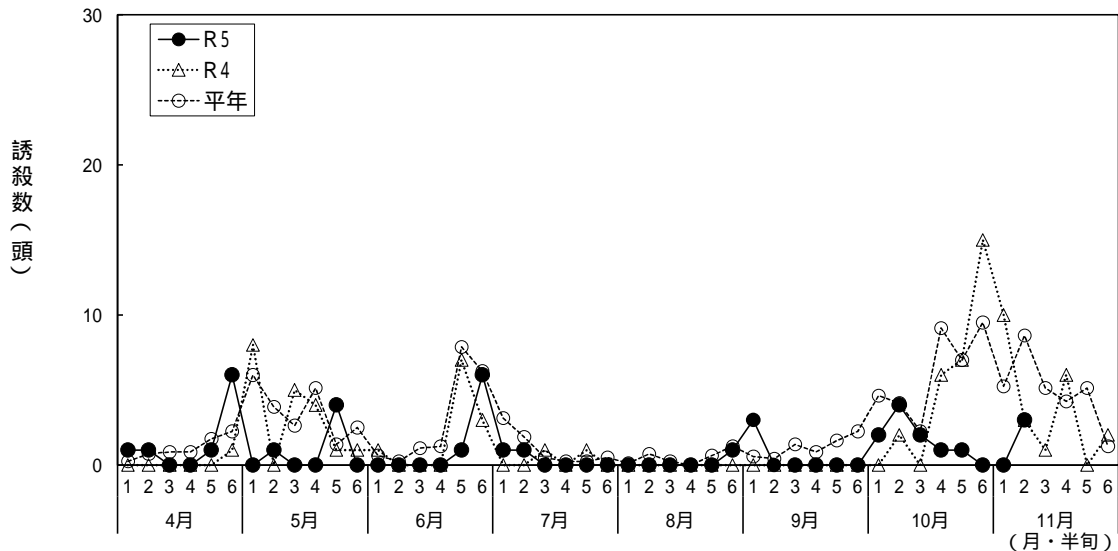


図 オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺状況 (諫早市小船越)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 圃場の見回りを徹底し、早期発見に努め、卵塊や分散前のふ化幼虫は発見次第除去し適切に処分する。
- イ 幼虫は齢が進むと薬剤の効果が低下するので、若・中齢幼虫期に防除を行う。薬剤は虫体によく付着するよう丁寧に散布する。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和5年長崎県病害虫防除基準P238~241の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤を連用しない。

6. アオムシ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は0.3%(0.1%)、発生圃場率は8.3%(3.1%)であった。

レタス

1. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査(9筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

2. 菌核病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査(9筆)の結果、発病株率は0.1%(0.1%)、発生圃場率は11.1%(5.8%)であった。

3. アブラムシ類

(1) 予報の内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査(9筆)の結果、寄生株率は1.4%(0.2%)、発生圃場率は22.2%(8.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

気温の低下につれて球内部の葉への寄生が増えるので、薬剤防除にあたってはでき

るだけ結球前の防除を徹底する。

4. オオタバコガ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 11月前期の巡回調査(9筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺数は11月2半旬に増加したが、平年よりやや少なく推移している(ブロッコリーの項参照)。

かんきつ

1. ミカンハダニ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は5.7%(4.5%)、発生圃場率は47.2%(39.6%)で、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 越冬虫のマシン油乳剤による防除は、収穫後の12月(遅くとも1月上旬まで)に、晴天が続く日(少なくとも2、3日程度)を目安に行う。

イ 樹勢が低下している樹では落葉が助長されることがあるので、そのような園や12月に防除ができなかった園では、厳寒期を過ぎた3月に散布する。

ウ マシン油乳剤は、名称が異なる剤が複数あるので、各製品の使用基準をよく確認する。

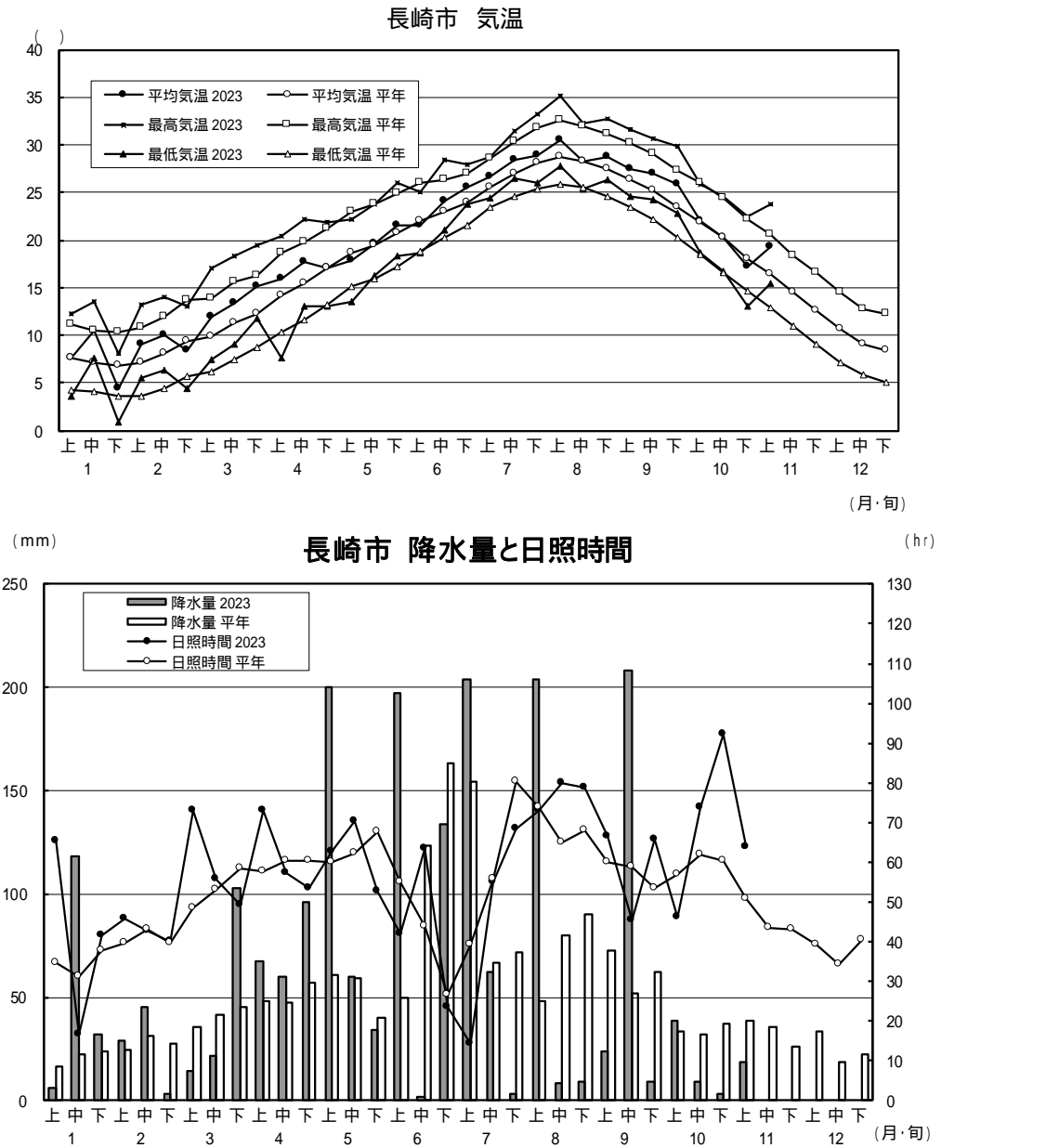
【参考】

(令和5年11月9日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	40	30
降水量	40	40	20
日照時間	20	40	40

予報対象地域：九州北部地域

令和5年の気象経過(長崎地方気象台)



長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
 「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
 (長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>
 この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
 (長崎県病害虫防除所) TEL：0957-26-0027

